

第39回静岡県バドミントン総合選手権大会(団体) 平成30年3月18日(日) 富士市立体育館

男子の部  
1位 ジャトコ  
2位 富士見高校



女子の部  
1位 広幡バドキッズ  
2位 NSY・NMT



第36回全日本レディースバドミントン選手権大会(クラブ対抗) 静岡県予選大会  
第36回東海レディースバドミントン大会(団体戦) 静岡県予選大会

平成30年4月7日(土) 東遠カルチャーパーク総合体育館「さんりーな」

〈クラブ対抗〉1位 スルガウイングス 2位 北部クラブ 3位 プリマドンナ 4位 ジャーミズ  
※1位は、第36回東海レディースバドミントン大会(団体戦)平成30年5月12日(土)岐阜県開催に出場  
第36回全日本レディースバドミントン選手権大会(クラブ対抗)京都府開催に出場

〈団体戦〉1位 スルガウイングス 2位 清水さつき 3位 ウィッシュ 4位 ウェンディ  
※1位~4位第36回東海レディースバドミントン大会(団体戦)平成30年5月12日(土)岐阜県開催に出場

第18回全国社会人クラブ対抗大会 平成30年3月10・11日(土)

彩の国くまがやドーム、熊谷市市民体育館

成年混合複部  
Family(神奈川県) 2-1 S.W.A.C(静岡県)  
岡山選抜(岡山) 2-1 S.W.A.C(静岡県)  
Minton(富山) 3-0 S.W.A.C(静岡県)



第111静岡県教職員バドミントン選手権大会 平成30年3月3日(土) 三保体育館

種目	1位		2位		3位	
	氏名	校名	氏名	校名	氏名	校名
男子一般シングルス	吉田将紀	常葉大学付属菊川高校	弘末拓也	伊東高校	重本俊介	清水江尻小学校
男子成壮年シングルス	吉原隆	島田商業高校	小川雅彦	西奈南小	押川達夫	元沼津高専
男子一般ダブルス	吉田将紀	常葉大学付属菊川高校	坂下裕基	科学技術高校	杉浦正樹	富士特別支援学校
	重本俊介	清水江尻小学校	平岡佑太	小笠高校	吉田社登	長田西小
男子成壮年ダブルス	吉原隆	島田商業高校	湖東淳	浜松医療学院	大澤俊幸	科学技術高校
	小川雅彦	西奈南小	佐藤大介	浜松聖星高校	岩城保久	大池小学校
女子一般シングルス	浅見佳世	浜松市入野小学校	寶石紀満子	千代田小		
女子一般ダブルス	中嶋陽子	長田西小	寶石紀満子	千代田小	石塚優	若竹幼稚園
	米田博子	東豊田小	浅見佳世	浜松市入野小学校	植田恵子	清水小
混合ダブルス1部A	大澤俊幸	科学技術高校	小川雅彦	西奈南小	杉浦正樹	富士特別支援学校
	中嶋陽子	長田西小	浅見佳世	浜松市入野小学校	石塚優	若竹幼稚園
混合ダブルス1部B	坂下裕基	科学技術高校	稲葉宗一郎	伊東市立南小学校	弘末拓也	伊東高校
	高柳美里	滝西小	寶石紀満子	千代田小	米田博子	東豊田小
混合ダブルス1部C	増井裕大	浜松市立八幡中	西田佳弘	豊田中	和久田恭聖	浜松市立雄踏小
	朝妻美咲	御殿場市朝日小	植田恵子	清水小	秋元碧	三島市立徳倉小

科学技術高校バドミントン部 顧問 坂下裕基 大澤俊幸 坂下順子

部訓は「声を出せ、汗を流せ、足跡を残せ」です。部活動理念の一つ目は、「バドミントンを通して人としての生き方を学ぶ」二つ目は、「切磋琢磨して成長し合い、今を懸命に生きて、昨日より今日、今日より明日を向上させていく」最後に「世のため人のために貢献できる人間になる」ことそのために四つのことを実践しています。

一つ目は「感謝」支えてくれる家族や友人、指導者すべてに感謝の気持ちを持つ、

二つ目は「文武両道」

三つ目は「目の前のことに最善を尽くす」

四つ目は「他基地からで行動する」

この四つをやっていくことで、社会に出たとき、バドミントン部で培った人間力が生かされます。朝は早く練習は厳しいですが達成感のある部活です。これからも日々努力し、頑張っていきます。



「あの頃」 私とバドミントン 鈴木 昂(80歳)



初めてバドミントンに出会ったのは、中学3年(昭和26年)の夏、今の横浜球場にあった米軍の体育施設「フライヤージム」で米兵やその家族がテニスラケットより少し小さめのラケットで白い羽を打ち合っていた姿であった。正月の羽子板に似ていてネットを境に各人がいろいろのプレーを楽しんでいた。翌年高校に入学したのでバドミントン部に入部したい旨、父に相談すると、父はテニスをやっていたので「お前は足が遅いので陸上部に入り走り方の基礎をしっかりとやれ!」と云われ1年間中は距離を中心によく走った。

2年になるとあの「フライヤージム」で見た面白そうなゲームが忘れられずバドミントン部へ入部したが、用具が買えず同級生のラケットを借り上級生のプレーを真似してバドミントンの面白さの深みに入り込んでしまった。

当時、富士市内のスポーツ店は旧吉原市の友愛スポーツ店しかなく、木製ラケットの川崎ラケットの価格がガットを張って600円から800円、シャツは浜松の羽立工業、東京のサンバタ、少し遅れてヤマハ扱いの台湾製 AEROCOCK が一ヶ24円前後で売られていた。入部して2年3年は戦歴として残せず3年生の後半になると将来の進む道を考えはじめ、あの雄大な富士山の麓で酪農をやってみたくと考えはじめていた。

そうだと云えば北海道だと帯広の大学にしばらく受験願書を送った。受験目前の正月2日両親に兄が浪人中なので2~3年後に大学進学にしてくれと云われ、少し悲しくなった。それでも卒業し父の紹介で隣の合板会社に就職した。新しい自転車を購入し富士川橋を渡り毎日30分かけての通勤だった。当時の給料表を母が大切に保管してくれていた。仕事に少し慣れた頃、同級生の山口君が「第一小の講堂が夜間借りられ先輩たちが練習しているからこないか?」と誘ってくれた。

週3回の練習であったが欠席せずただ夢中で先輩のプレーを盗み、真似して、山口君とダブルスを組み翌年昭和31年の第11回の兵庫国体県予選会に参加した。そしてダブルスで優勝、シングルスで吉原高校出身の市川さんに負け2位の成績であった。

そして神戸へ「第11回国民体育大会」

当時昼間の急行列車はなく富士駅に急行は、止まらず、静岡駅まで行き夜行の急行列車に乗り、神戸までは8時間だった。当時の食糧事情は悪く参加者は、「お米3号持参」と指示されその思い出は今も強く残っている。一回戦は地元兵庫県との対戦で2:1で勝利した記憶が残っている。1回戦突破後、宿に戻ると母が作ってくれたジャンパーとズボンがなく、金銭まで盗難にあい苦い経験だった。しかし県体育協会長の斉藤了英氏(当時大昭和製紙社長)が心配してくれ「これで上下の衣料を買いなさい」とそれなりの金銭をいただいたことは終生忘れられない。

「第12回国民体育大会」

神戸での国体初体験の翌年静岡県内が初会場となりバドミントン会場は富士市内となり、富士中学体育館(4面)富士高講堂(2面)に決まり、それからは練習に熱中し、仕事が夜勤になると午前中に睡眠をとり、午後は家の前の雁堤防を実相寺から水神社まで片道4kmを必ず2往復し、足腰を鍛えた。そして小石を拾い100回は河原に向け遠投したりして国体予選に出場した。富士中体育館での国体バドミントン競技の開会式では富士見高の西村さんと選手宣誓をした思い出もある。

「第13回国民体育大会」

いよいよバドミントンの奥深さに入りこみ、将来の事など考えず、唯、唯、練習に熱中し3年連続で国体に参加でき、富山国体ではベスト8まで勝ち進み神奈川県と対戦し当時最強と云われた佐藤・杉田組と対戦し見事な惨敗だった。シングルスは佐藤さんと対戦し3セットまで進み、借敗した事を記憶している。今、80歳台となり週2回程度の筋力アップ講座に通い体力維持に努力しているが、あの若い頃の体力は遠いものとなったが、それでもバドミントンは大好きだ!



第12回国民体育大会バドミントン競技開会式 昭和32年10月26日

